

所属プロジェクト	ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する -
担当教員名	三上貞芳, 高橋信行, 鈴木昭二
氏名	普久原 朝基
学籍番号	b1018247
クラス	L
配属時における学習目標は何でしたか。(複数回答可)	プロジェクトの進め方
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
上記の目標達成のために、どのようなことを行いましたか。(自由記述 200 文字以上)	プロジェクト発足時に掲げた上記の目標を達成するために、グループメンバーとの普段のコミュニケーションをできるだけ密に行い、各々の「理想の接客ロボット店員」に対するアイデアを提案しあいそれぞれ共有し、グループでの完成形となる「理想の接客ロボット店員」をイメージし実際にソフトウェアを用いてモデルとして起こした。そしてそのモデルをスタイロフォームを用いて実物大モデルとして制作してサイズ感の確認を行い、各自必要なことについて勉強を行った。
前期の活動を終えて、学習目標は変化しましたか？ 現時点（7月末）における学習目標を選択してください。(複数回答可)	e. 学生同士でのコミュニケーション f. 教員とのコミュニケーション g. 技術・知識の習得方法 h. 技術・知識の応用方法 i. 作業を楽しく行う方法 l. 課題の解決方法
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
(9の質問で学習目標が変化した学生) 学習目標が変わった理由は何ですか？(200文字以上)	実際にプロジェクト活動をしていく中で、機構学や電子工作、3DCADを用いての3Dモデルの作成方法など、制作していく

	<p>ために必要な学問やソフトなどの勉強をしていくことで、制作物に対する完成形のイメージが固まり、今現在わかることとわからないことを比較して必要な事柄の勉強の仕方などがわかってきた。そのことで夏休みや後期にかけてどうしていくことがプロジェクトの成功につながるのかということが明確に定まったからである。</p>
<p>後期、学習目標の達成のために、どのようなことを行う必要があると考えますか。(200文字以上)</p>	<p>前期で行ったことに対しての必要な知識の習得はもちろん、グループ内のコミュニケーションを前期よりも密にとることだけではなく、ほかのグループとのコミュニケーションをこれまでよりもさらに密に図っていく必要がある。また、プロジェクトメンバーでお互いに学んだことを他のグループメンバーやプロジェクトメンバーにアウトプットしていき、自分たちが考えている制作物に対していいところは取り入れ、悪いところは改善していく必要がある。</p>
<p>前期の活動を振り返って、活動全体の印象や感想を書いてください。(自由記述 200 文字以上)</p>	<p>最初の頃は皆初めてのことでどうすればいいか分からずに衝突も起きたりはしたが、担当教員の先生方のアドバイスや叱咤激励、プロジェクトメンバー同士のコミュニケーションの効率化などもあり、最初期よりもプロジェクトの雰囲気が良くなった。またある程度個人での学習が進んだためにお互いにフィードバックをしあえるようになった。後期では前期以上にグループ間のコミュニケーションを図り、また他グループともより密にコミュニケーションを取りたい。</p>

--	--